

第211回イタリア映画鑑賞会

入場無料

- 日 時：2024年6月28日(金)18:00 開場／18:30 開演 (21:00 頃終演予定)
- 会 場：あじびホール
(福岡市博多区下川端町3-1 福岡アジア美術館8階／TEL 092-263-1100)
- 入 場 料：入場無料／先着100名様

※事前申込は不要です。直接会場へお越しください。なお、定員(100名)になり次第、締め切らせていただきます。

※やむを得ず、急遽上映作品の変更や鑑賞会を中止にする場合がございます。

第211回上映作品

『無法者の掟 In nome della legge』

(1948年96分 イタリア語/日本語字幕)

監 督／ ピエトロ・ジェルミ
原 作／ ジュゼッペ・グイド・ロスキアーヴォの自伝的小説『小裁判官』
脚 本／ A. ピッツァッリ、F. フェリーニ、P. ジェルミ、G. マンジョーネ
M. モニチェッリ、T. ピネッリ
撮 影／ レオニーダ・バルボーニ 音 楽／ カルロ・ルスティケッリ
美 術／ ジーノ・モリーチ 編 集／ ロランド・ベネデッティ
製 作／ ルイジ・ローヴェル (イタリ・ルックス社)
出 演／ マッシモ・ジロッティ、シャルル・ヴァネル、カミロ・マストロチンクエ、
ヨーネ・サリナス、トゥリ・パンドルフィーニ

「証人」「鉄道員」「刑事」など、家族の物語やサスペンス、コメディと何を撮らせても“うまい”職人監督ピエトロ・ジェルミの三作目の作品です。この作品が彼の出世作となりました。

シチリアを舞台に村を支配するマフィアに立ち向かう若い新任検事の姿を描いた社会派ネオレアリズム。脚本にはF. フェリーニとM. モニチェッリが協力しています。ジュゼッペ・グイド・ロスキアーヴォの自伝的小説『小裁判官』の映画化。

シチリア中央部のカーポドルソ村。ロヴァスト男爵の土地で馭者(ぎょしゃ)が殺される。村人たちは、犯人はマフィアだとわかっているが、誰も何も言わない。正義感の強い新任検事スキアーヴィが赴任してきた。再び殺人事件が起こった。犯人を逮捕するが、マフィアの力で釈放される。鉦山の閉鎖や占拠、検事への買収と刺客、男爵夫人との愛など、盛沢山の試練が若き検事に降り懸かる。どうする、検事!!

どうぞお楽しみください。

(解説 湯越 勘一)

《お問合せ先》 福岡日伊協会 事務局 渡・本村・清家
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-3-6 西日本シティ銀行内
TEL: 092-476-2153 / FAX: 092-476-2634
E-mail: aigfukuoka2@galaxy.ocn.ne.jp